

生死の間取り
The Layout of Life and Death

KUNST ARZT では、藤井毅の初個展を開催します。
藤井毅は、器を「生死を司る装置」として捉え、
革新的な陶表現をするアーティストです。
「Vitality Vessel (2024)」は、羽根をむしり取られ
た一体の鶏が、全身をプロテクターのような白い
陶片で覆われた状態で、前面がガラスの冷凍庫に入
れられた作品です。“命を殺めて命を繋ぐ”という
事実を、改めて鑑賞者に突き付けています。
本展は、中国・北京にある中央美術学院への交換留
学を背景とし、陶磁器の最高峰とされた景德鎮での
滞在制作授業への参加経験を経て開催されます。

(KUNST ARZT 岡本光博)



Vitality Vessel
2024
磁土、金属、丸鶏、冷凍庫
H855×W460×D495 (mm)

経歴

2002年 岐阜県生まれ
2002年 岐阜県生まれ
2021年 大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科 陶芸コース 入学
2025年 大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科 陶芸コース 卒業
2025年 京都市立芸術大学 修士課程 工芸専攻 陶芸分野 在籍
2025年 北京中央美術学院 彫塑科 交換留学

展示

グループ展

2024年 ギャラリー白 Kuro 「捲土」
2024年 大阪芸術大学情報センター 「工芸のたまご」
2024年 Gallery Terra-S 「合同陶芸展2024」
2025年 大阪芸術大学 「大阪芸術大学 卒業制作展2025」
2025年 京都市立芸術大学 「#? 陶磁器専攻前期展」
2025年 北京798艺术区・宇达艺术空间 「熏 陶 中央美术学院雕塑系陶瓷材料表现课程作品展」

2026 年 3 月 10 日 (火) -15 日 (日)

12:00-18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

アーティスト・ステートメント

私は、器を「生死を司る装置」として捉え、その構造や使用のあり方を通して、人間と他者、生命と物質との関係を思考し、制作している。

生きるために他者を取り込み、不可逆的な変化を与える動作は、食事という行為の内部に静かに組み込まれている。皿に盛られた肉や野菜は、器によって「素材」へと変換され、生命であった痕跡は操作可能な対象として整理される。

私はこの変換のプロセスそのものに関心を持っている。

どのような形状が、どのような距離感や倫理を生み出すのか。その問いを、器を作りながら検証している。

展示コンセプト

「器」という存在は、関係性が生じる場に現れる。器は何かを収める物体である以前に、内と外、人と他者の境界を意味付ける機能をもつ。制作の出発点には、「食べる」という行為がある。

それは単なるエネルギーの摂取ではなく、他者の破壊を伴い、生命を生命によって維持する不可逆な関係である。この瞬間、器は捕食という関係を日常の中に定着させる装置として機能する。

やがて器は、外部にある道具であることを超え、身体そのものと重なりはじめる。口腔や内臓空間のように、通過と変換が起こる場である身体は最初の器だった。外部にあった器は拡張された身体となって、その境界は溶け出していく。

捕食を終え、身体から切り離された器は移動し、受け渡される。作られ、運ばれ、使用される動作が意味を形成し、器は人と人、人と世界を接続する節点として振る舞う。

器は道具として人の世界に偏在する。行為に介入し、構造を成立させる存在として。



虚空球
2022
陶土、化粧土
H220×W320×D220(mm)



タイトル未定
2025
磁土